

# 研究紀要

## 研究主題

多くの人とかかわり、自分の世界を広げる子どもの育成  
—特別活動を核とした活動場面における体験活動の工夫を通して—



登米市立宝江小学校

## あいさつ

登米市教育委員会  
教育長 佐藤 壽昭

ここに平成21・22年度文部科学省指定、宝江小学校「道徳教育実践研究事業」の公開研究会を開催するにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

平成23年度完全実施の小学校新学習指導要領では、道徳の時間の位置づけを道徳教育の「要」という表現を用い、その役割の重要性を示しています。この背景として、急激な社会の変化による、社会全体のモラルの低下や家庭・地域の教育力の低下、さらに子どもたちの様々な体験不足等が挙げられ、学校における道徳教育のはたす役割はますます大きくなったと言えます。道徳教育の充実のためには、これまで家庭や地域社会で担ってきた部分を、学校がこれまで以上に、道徳教育との関連の中で整理していくことが求められる時代になってきました。

宝江小学校では、このような時代の要請を受け、道徳教育と体験活動の関連を図った研究を進めてまいりました。人は知識として理解していても必ずしも行動と一致するとは限らず、多くは実体験からの気づきを基に、自らの行動に生かしていると言えます。道徳教育においても、子どもたちに、実際の体験から、いかにして道徳的価値に気づかせるかが重要であると考えます。しかし、子どもたちの現状は人間関係の希薄化や生活体験や自然体験が不足しており、学校では意図的・計画的に気づきをもてる体験活動を道徳教育に取り込んでいく必要がでてきました。このような意味で、今回の宝江小学校の提案が少しでも参加の皆様の参考になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、宝江小学校の取組にご理解とご協力をいただきました地域や保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、ご指導をいただきました関係の皆様に御礼を申し上げあいさつといたします。

## あいさつ

登米市立宝江小学校  
校長 小野寺 雄一

平成21・22年度、文部科学省から「道徳教育実践研究事業」の指定を受け、「多くの人とかかわり、自分の世界を広げる子どもの育成」を研究主題に掲げ、道徳教育と体験活動の関連を図った研究を進めてまいりました。研究主任を中心に、全職員一丸となって意図的・計画的に研究を進めてきましたが、本校教育目標の具現を図るため特に次の二つの視点に立って研究推進を行ってきました。

一つは、教師の指導力を生かし魅力ある教育課程を創り上げることです。研究が進むにつれ、児童理解の幅が広がり、授業改善を繰り返すようになり教師の指導力の向上に結び付けることができるようになったと思います。指導力の向上と併せて教育課程全般に活力が増し学校教育目標の具現が加速するものと捉えています。

二つに、本校で取り組んでいる教育活動の成果を保護者、地域住民に示すことです。学校評価や授業評価と絡め、地域公開の機会を可能な限り開くことにより、地域の目による理解を深め、協力を求めることが大切だと思っています。本研究においても、理解と協力の下、地域公開をしながら教育の成果を説明することが大きな視点となっています。

本日、授業公開、研究の成果を発表させていただきましたが、公開内容としてはまだまだ稚拙ではありますが、参観者の皆様のご意見・ご助言を基に、今後も学校教育目標の具現に向けて研究を推進してまいります。

結びに、文部科学省はもとより宮城県並びに登米市教育委員会をはじめ、ご指導をいただきました先生方に感謝を申し上げますとともに、ご参会の皆様に心からお礼を申し上げます。

## 主題設定の理由

### 児童の実態から

- ・与えられた仕事や課題に熱心に取り組む
- ・やさしさを言葉や行動で示すのが苦手
- ・人の話を聞いて自分の意見をもつ活動が苦手

### 保護者から見た児童の姿・願い等

- ・他の人とかかわりが苦手
- ・他に親切にし、助け合うことのできる子どもに育ってほしい

課題の解決と願いの実現に向けて  
友達や地域の人々とかかわる→自分とは違うものの考え方に触れる→受容できる心情を育てる

- ・多くの価値観に触れることができる体験の場が必要
- ・特別活動は、自発的・自治的な活動の体験や多くの人や事象と触れ合う体験が可能

## 研究主題

多くの人とかかわり、自分の世界を広げる子どもの育成  
－特別活動を核とした活動場面における体験活動の工夫を通して－